

学群スタンダード

人間としての可能性を 知の拠点TSUKUBAで拓く

建学の理念を踏まえて、学士課程における教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善の方策を含む教育の枠組みを明らかにし、学位の質の保証と持続的向上を目指す本学の教育宣言として広く社会に公表します。

建学の理念

筑波大学は、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。

従来の大学は、ややもすれば狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった。本学は、この点を反省し、あらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学であることを基本的性格とする。

そのために本学は、変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発する。更に、これらの諸活動を実施する責任ある管理体制を確立する。

IMAGINE THE FUTURE.

筑波大学は「新構想大学」と呼ばれ、「開かれた大学」を開学の理念として生まれました。旧来の大学のありかたを反省し、「学際」そして「国際」化への「改革」を掲げた、原点もアイデンティティもここに 있습니다。その後の時代の流れを見れば、この理念の予見したものが、いかに先進的であったかがわかります。学際化、リベラルアーツ教育、産業と学問の連携、国際交流、留学生の受け入れなど、ことごとく時代の求めるところとなってきました。私たちは、この理念の先進性、先見性を誇りに思うべきです。

あえていうならば、私たちは「伝統校」「名門校」の称号よりも、新しい、開かれた「先端校」「先進校」の理念を選んだのです。東京高等師範学校、東京教育大学という伝統の誇りはいまでも私たちの内にありますが、東京を離れ筑波に地を得たとき、誓ったものは新しい「改革」と「挑戦」の理念でした。「筑波」とは地名ではなく、その理念の代名詞だと思ふべきです。改革者は改革をやめず、開拓者は開拓をやめません。つねに、開かれてあること。みずからの改革をつづけ、時代の矢印となること。筑波大学が目指すナンバーワン、オンリーワンとは、最も「未来志向」の大学であること、ではないでしょうか。世界と未来に向けたTSUKUBA CITYの中核として。医学・体育・芸術もあり、肉体性と感性の領域まで含む人間理解と人材育成を目指す、真の意味での総合大学=UNIVERSITYとして。

筑波大学とは「未来へのフロントランナー」である、と、あらためて確認して、この新しい伝統のバトンを、絶えることなくリレーしていきたいと思ふます。

筑波スタンダードとは何か

筑波スタンダードは本学による教育宣言です。学士課程のスタンダード(平成20年3月公表)と大学院のスタンダード(平成23年6月公表)の2種類があり、各課程で筑波大学が何を目指し、その目標をどうやって達成するかを明らかにし、本学が保証する教育の質を広く社会に公表するものです。質を維持するだけでなく、それをたえず改善し、持続的に向上させるツールとして、筑波スタンダードは学内でも重要な役割を果たしています。

「学位プログラム」の意義

学位プログラムとは、学士・修士・博士といった学位の水準と学問分野に応じて達成すべき能力を明示し、その能力を学生が修得できるように体系的に設計された教育プログラムのことです。学部等の教育組織に教員が固定される従来型のシステムでは、個々の教員が提供する授業の総和としてプログラムが組まれるため、社会の要請や学生のニーズよりも教員の事情が優先されがちでした。それに対し、学位を国際的互換性のある能力の証明と位置づけた上で、学位に相応しいプログラムにするために学内外の組織の枠を越えて教員が集まり、学生視点での教育内容を提供するのが学位プログラムです。学位プログラムを中心とした教育システムとすることにより、学生にとっても社会にとっても、大学の教育目的、教育内容、教育成果が見えやすくなります。

筑波スタンダードと学位プログラム

本学は開学以来、従来の学部とは異なる「学群・学類」を置き、学生の教育のための組織と教員の研究のための組織を分離した体制の下で学士課程の教育を実施してきました。この教育システムにより、一つの組織内で閉じることなく、教育の必要性に応じて全学から担当教員を配置することを可能としています。これは、学位プログラムの考え方を体現した教育システムと言えます。さらに2011年度には、新たな教員組織(系)を設置する組織改革を行い、大学院も含めて学位プログラムに適した運営基盤を整えました。そして今回の筑波スタンダードでは、すべての教育組織において、学位ごとの「学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」、およびその質を保証する方策を明示しました。

これらは、本学の建学の理念に基づく一貫した取組です。今後も、国際的互換性と協働性を備えた教育システムとして全学的に学位プログラム制を確立すべく、教職員一同、さらなる教育改革に邁進する所存です。

筑波大学長 永田恭介

学士課程の教育目標

世界に通用する知性・人間性・逞しさを備えた
グローバル人材の育成に向け、以下の教育目標を掲げる

■ 本質を究める確かな基礎力と柔軟な思考力に
裏打ちされた創造性を養う

■ 国際的な活躍の礎となる
豊かな教養とコミュニケーション力を育む

■ 芸術やスポーツに親しみ、
優れた文化的営みに感動する力を養う

■ 自然と人間を慈しみ、
積極的に社会に貢献する態度を育む

■ 生涯を通して学び、
自律的に自己を成長させ続ける力を養う

学生本位の教育システムによる学位の質保証

学位プログラム、適切な学修プロセス、責任ある教育実施体制により、学位の質を保証します

■ 学位プログラムの構築

筑波大学は、グローバル社会で活躍できる人材の育成に向けて5つの教育目標を定めるとともに、教育目標を達成するために学士課程のすべての学生が修得すべき具体的な知識・能力等として、6項目の汎用コンピテンスを定めています。(表1)

筑波大学の学士課程では、これらの知識・能力等を学生が確実に身に付けられるよう、全学的な教育の枠組みとして、共通教育と各学群・学類の専門教育を有機的に連携させた教育システムを構築しています。

また、各学群・学類は、学生の卒業後の活躍の場や姿のイメージを具体化した上で、汎用コンピテンスに加えてどのような専門的知識・能力等を養うか(学位授与の方針)、それを達成するためのカリキュラムをどのように編成し実施するか(教育課程編成・実施の方針)、その教育に相応しい入学者としてどのような資質や志を持った人材を求めるか(入学者受入れの方針)という3つの方針とともに、恒常的な教育改善の仕組みを明確化して、体系的な教育を実施します。

このように学位授与に至る道筋として、3つの方針を明確化する考え方は学位の質を保証する上で極めて重要であり、それをさらに推し進めた教育システムが学位プログラムです。筑波大学は、学生本位の視点に立って、学生の学修成果を保証する学位プログラムを構築します。

■ 適切な学修プロセス

学位の質を保証するためには、体系的なプログラムの整備とともに、単位制度の実質化や厳格な成績評価等により、学生が適切な学修プロセスを経るよう指導することが必要です。

各学群・学類及び共通科目等の実施組織は、各授業科目により修得する知識・能力等とその過程(授業の

事前・事後の学修を含む)を学生に明示し、計画的に授業を展開します。各授業科目における学生の到達度の判定にあたっては、明確な成績評価基準の下で厳格な成績評価を行います。

シラバス(授業計画)の充実やグレード・ポイント・アベレージ(GPA:履修科目の成績の平均値)の活用、大学院生によるティーチング・アシスタントの効果的な配置等により、学生の学修プロセスを国際標準に準拠させていきます。

■ 責任ある教育実施体制

教育の基本方針や教育改革に関する基本計画の策定、教養教育、学生生活支援、障害学生支援、キャリア支援等については、全学的な組織を設置して、企画立案と実施の総括を行います。

各学群・学類においても、教育・学生支援に関する様々な業務を組織的に遂行する体制を整備し、責任をもってその実施にあたります。

また、全学的な学生組織と概ね20人の少人数クラス制により、学生の意見反映や学修全般に関するきめ細かな指導を担保します。

汎用コンピテンス(学士課程)

コミュニケーション能力	母語や外国語を適切に用いるとともに、各種メディアを利用したプレゼンテーション等を行うコミュニケーション能力
批判的・創造的思考力	一般的・専門的知識の体系的理解をベースに批判的・創造的に思考する能力
データ・情報リテラシー	様々な事象や情報を数量的手法やコンピュータ等を用いて適切に解析・処理する能力
広い視野と国際性	自身の専門に留まらず文化・社会と自然・物質に関して幅広く理解し、異文化を理解・尊重する能力
心身の健康と人間性・倫理性	芸術やスポーツへの理解と実践等を通して心と身体の健康を保ち、人間性と倫理性を有する市民としての責任を自覚して実践する能力
協働性・主体性・自律性	チームワークやリーダーシップを通して様々な物事に対処し自己を管理しながら自律的に学び続け行動する能力

表1 汎用コンピテンス(学士課程)

TSUKUBA 方式によるグローバル人材の育成

「学生本位の視点」「国際的視点」「未来の視点」に立って、世界に通用する知性・人間性・逞しさを育てます

■ 学生本位の視点

筑波大学の学士課程のカリキュラムでは、全学修期間を通して、確かな専門性とそれを支える豊かな教養を養います。そのために教養教育と専門教育を二分せず、学生の履修上の観点から、両者を統合したカリキュラムを編成・実施します。学位に応じて学生の学修成果を保証する教育システムとして、学位プログラム制を構築します。

教育の実施に当たっては、教員と学生・学生同士が相互に作用し合うアクティブ・ラーニングを重視し、学生の主体的・能動的な学修を促します。課外においても、各種課外活動団体の支援に加えて、本学独自の「T-ACT」システムにより、学生の自発的な活動をサポートします。また、全学的な学生組織により、学生と教職員が協働して教育・学生生活の充実・改善に取り組みます。

■ 国際的視点

学生が世界に目を向け、グローバル社会で活躍できる資質を身に付けるための仕組みや環境の整備をあらゆる面にわたって強力に推進します。

各々の専門分野において国際性に富んだ質の高い教育を実施するとともに、グローバル人材としての基礎的素養を培う「グローバル科目群」の設定や海外留学支援策の充実・強化により、「世界を学びの場」とする学修環境を構築します。

また、世界の様々な国からの留学生と日本人学生が、国籍や文化、専門分野の区別なく日常的に接し協働する学修スペースの配置や、多言語で交流できるカフェの開催などにより、本学のモットーである「国際性の日常化」を体現するキャンパス環境を構築します。

さらに、国境を越えて教育の質を保証していくために、国際的な通用性・互換性のある教育システムの構築に先導的に取り組みます。

■ 未来の視点

変化の激しいグローバル社会において未来を切り拓く力を育成するために、産業界等と連携した教育を積極的に実施します。各界のリーダーによる講義や、様々なフィールドにおける実習・インターンシップ等の実践的な科目を通じて、社会の課題の本質を捉え未来を洞察する力を養います。

学生のキャリア形成支援は入学時からスタートします。学生が自分の将来と大学における学修を結び付けて考えるためのキャリア関連科目や本学独自の「つくばキャリアポートフォリオ」等により、学生のキャリア形成を体系的に支援します。

このように、学生が社会の未来と自分の将来を重ね合わせながら、問題意識と高いモチベーションをもって学修を進めることにより、個性と自立を基軸として社会に主体的に貢献する力を育成します。

世界に通用する知性・人間性・逞しさを備えたグローバル人材

国際的視点

「世界を学びの場」とする学修環境
「国際性の日常化」を
体現するキャンパス環境
国際的互換性のある教育システム

学生本位の視点

学生の学修成果を保証する
学位プログラム制の構築
学生の主体的・能動的学修
学生と教職員の協働

未来の視点

産業界等と連携し、グローバル社会において
未来を切り拓く力を育成
社会の未来と学生自身の将来を
重ね合わせたキャリア形成

TSUKUBA 方式によるグローバル人材の育成

学士課程における新教育理念

専門分野の学びとしての垂直展開と教養涵養のための水平展開

理念

本学では開学以来、「共通科目」に加えて、他組織開設の専門科目等を履修する「関連科目」を置いて、他学群・学類の専門性を統合した教養教育を通じ、広い学問的視野に基づく高度な問題解決能力を持つ学生を養成してきました。

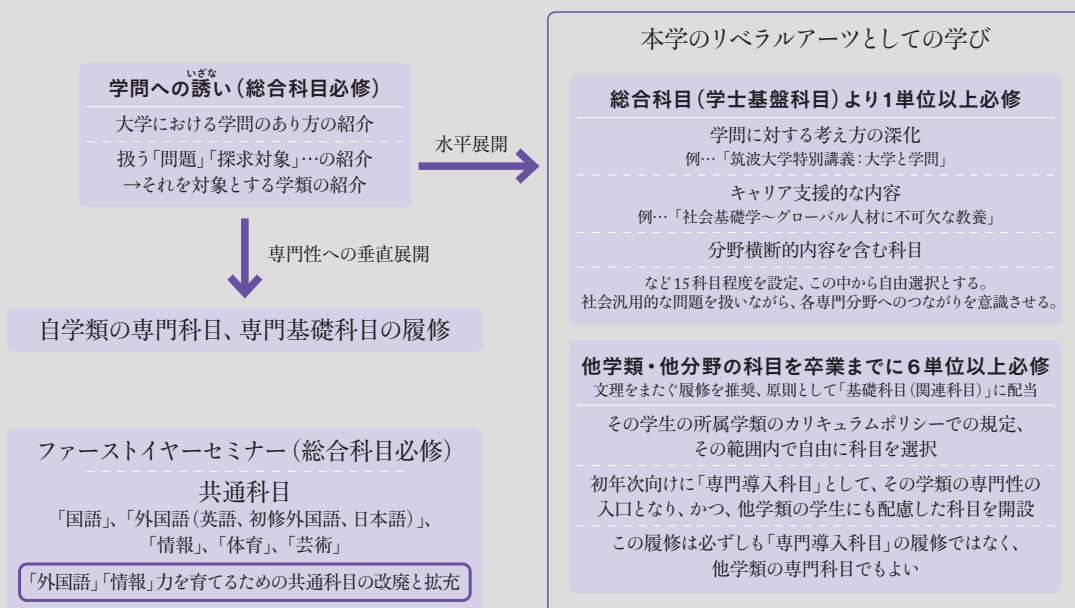
この精神を踏襲し、さらに専門智と汎用智が涵養されて総合智を身につけることができることを理念とする教育体系を構築しました。図のように、自らの専門性を深める学びを垂直的な学びの展開ととらえ、本学のリベラルアーツとしての学びは水平的な学びの展開ととらえます。この両者をともに実践できる教育体系を実現できることを理念としています。

理念を実現するために

この水平と垂直の要(かなめ)に、「学問への誘い^{いざな}」を総合科目(必修)として開設し、この履修を通じて大学における学問のあり方や扱う問題、探求対象をまず学びます。一方、学問に対する考え方の深化や、グローバル

人材に不可欠な教養、あるいは分野横断的な内容を含む総合科目(学士基盤科目)の中から自由に選択して履修することで、社会にある様々な探求対象と学問分野のつながりを理解します。また、各学類・専門学群が開設する「専門導入科目」の履修は、その科目を開設した組織に所属する学生にとっては専門の基礎を学ぶものとなり、それ以外の学生にとっては自分が専門とする分野とは異なる分野の学びとするしきみを整えています。各教育組織がそのカリキュラムポリシーに基づき、水平・垂直ともに体系的な履修を促すことで、学士課程において一貫した教養教育と高度で深い専門教育をより充実したものにします。これにより、複数分野から学生各自が自分の専門性を発見するための能力を涵養し、さらに、様々な学問分野の中で自分の主たる専門分野の位置づけを説明できる広い視野を持つ人材を養成します。

この理念の実践を更に推し進め、2021年度からは「総合学域群」を新たに設置します。総合学域群では、入学して1年間様々な学問分野に触れた上で所属する学群・学類を選択することができます。



全学的な教学マネジメントの実現

モニタリングとプログラムレビューを中核とする内部質保証の確立により教育の継続的な改善を推進します

■ 全学的な教学マネジメントによる PDCA サイクルの推進

改組再編後の学位プログラムの教育の質を持続的に保証・向上させていくため、教学マネジメント室を設置し、全学的な教学マネジメントを実現します。

教学マネジメント室では、学位プログラムのモニタリング(毎年の自己点検)とプログラムレビュー(機関別認

証評価の7年サイクルに合わせて数年おきに実施する総合的な点検・評価)の取組を中核としつつ、学位プログラムの新設又は改組等に伴う質保証の審査、体系的なファカルティ・ディベロップメントの推進及び高等教育に関する調査研究などを行い、内部質保証の確立と高度化を図ります。

モニタリングとプログラムレビューによる内部質保証の確立(イメージ図)

